

## 第7分科会 学校安全

### 研究課題：地域ぐるみで命を守る防災教育・安全教育の推進

# 「自分の命は自分で守る」力の育成

～自分の笑顔、家族の笑顔、地域の笑顔を守る～

提案者 呉市立昭和北小学校長 香川 隆太

## 1 はじめに

呉市では平成30年の西日本豪雨災害以降、重点施策の一つに「防災教育の深化」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育を進め、「自分の命は自分で守る」力の育成を目指している。

しかし、災害から7年が過ぎた現在の子供たちは、災害の記憶が薄れ、あるいはまったく覚えていない年齢になっており、災害の風化が懸念されている。

そこで、防災に対する知識を身に付けることはもちろんであるが、実際に付けた知識を活用し、地域とともに、災害を自分事として捉えること、そして当事者意識をもって、自分で考えて行動できる児童を育成することを目指した防災教育を実践することが必要であると考えた。本校では、各教科及び総合的な学習の時間や特別活動の時間に防災教育を位置付け、地域と協働した取組を進めている。

## 2 研究の概要

### (1) 昭和北小学校の取組

#### ① 本校を取り巻く実態

本校は呉市の山間部、焼山地区に位置している。西日本豪雨災害時には、校区の一部で河川の氾濫により店舗に土砂が流れ込んだり、土砂崩れによる道路の遮断被害があったりした。その影響で物資が届きにくい等、生活面でも大き

な影響があった。

また、地形的に、今後もまた同様の災害が起こりうる地域であるため、地域の防災意識は高く、子供たちにも地域災害の危険性を伝えたいという思いをもっている。地域の自主防災組織の方たちは、毎年子供たちを対象とした防災キャンプを実施したり、昭和地区の各学校の安全マップづくりに協力してくださったりする等、実践を積み上げている。

#### ② 防災意識を高める教職員研修

東日本大震災の被災地である気仙沼市及び花巻市で行われた研修に教職員がそれぞれ参加し、現地で学んだ防災教育への取組を教職員に伝えることで、教職員全体の意識を高めていった。また、一昨年度、昨年度に、各5名の教職員が大阪教育大学附属池田小学校の研修に参加し、本格的な避難訓練を体験した。実際に災害等が起こったときの「自分の命は自分で守る」行動について体験したことを基に、防災についての取組を検討していった。

#### ③ 取組の具体（北小防災フェスティバル）

各学年が防災について学んできたことを、それぞれの発表ブースで表1のとおり発表した。縦割り班48班を3グループに分け、発表するグループと各発表ブースを見て回るグループに分かれ、交代で各学年の発表を見て回ったり、実際に体験したりした。地域公開及び参観日を兼ね、地域及び保護者にも参加して頂いた。

|   |                                               |
|---|-----------------------------------------------|
| 低 | 自然災害から自分の命を守る<br>(防災ダック・防災かるた)                |
| 中 | 自然災害から自分や家族の命を守る<br>(ハザードマップ・防災リュック)          |
| 高 | 自然災害から地域の人々を守る<br>(応急処置・郷土料理の炊き出し・避難所・防災リーダー) |

【表 1 発達段階に応じたテーマや学習展開】

ア 児童からの発案を生かして

代表委員会で、北小防災フェスティバルに合わせて防災ソング及び防災キャラクターを設定したいとの声が上がった。児童会が中心となってアイデアを募集し、防災ソング及び防災キャラクターを決定し、当日発表した。

イ 被災された方の話を聞く

防災の学習を進める中で、懸念される災害の風化から、災害を自分事として捉え、当事者意識をもつことが必要であると考えた。そこで、被害の大きかった天応地区で被災された方に、高学年を対象に、体験談を語って頂いた。

## (2) 呉市の特色ある取組

### ① 阿賀中学校区

地域の人材育成や活性化を目的に発足した「阿賀学園地域教育連携協議会（通称 アガデミア）」は、周辺の教育機関・市民センター・自治会等の密接な連携により、大規模な避難訓練を実施している。また、二か月に1回程度、「アガデミア」による合同避難訓練に向けた情報交流や打ち合わせ等を行っている。

### ② 両城中学校区

小中一貫で防災教育（二川教育防災プロジェクト）に取り組み、令和5年度は、両城中学校生徒会が小学校で出前授業を行った。令和6年度は、「警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ」ねらいで行われ、大雨のときの対応をワークショップ形式で学習した。中学生がアナウンサーに扮し、天候の状況や警戒レベルを話した後、警戒レベル1のときはどう行動するか、レベル

3のときはどうか等、子供たちは、住む場所や家族構成を考えながら話し合った。

## 3 校長の役割

先進的な取組の視察を取り入れた計画的な防災教育の研修を仕組み、教職員の声に耳を傾ける。その上でカリキュラム・マネジメントの視点に立ち、発達段階に応じた計画的な防災教育を行っていく。全ての教育活動が、「自分の命は自分で守る」力を育む防災教育に結び付くことを教職員に意識させ、児童が主体的に学ぶ防災教育を創っていく。

地域ぐるみで防災教育を進めるためには、地域と学校をつなぐパイプづくりは必須である。校長として地域のいろいろな組織と学校とをつなぎ、地域と連携して防災教育に取り組める体制を構築していくとともに、地域との協働を意識し、地域に防災に関する取組を積極的に発信していく。

## 4 おわりに

意図的かつ計画的に教職員研修を継続的に実施することで、防災に対する教職員の意識を高めることができた。その結果、教職員が防災を自分事として捉え、当事者意識をもって取り組む姿勢が徐々に定着しつつある。そうした取組の中から生まれた「北小防災フェスティバル」では、特に高学年の児童が、防災ソングやキャラクターの作成を提案する等、「自分の命は自分で守る」力の育成が着実に進んでいることがうかがえる。地域の市民センター長から、「地域と一緒に取り組むこの取組は素晴らしい。ぜひ、焼山地区全体に広げていってほしい。」との言葉をいただいた。今後は、「北小防災フェスティバル」を定着させていく中で、災害を知らない世代の子供たちにも、防災を自分事として捉え、当事者意識をもって取り組む実践力を高め、児童の笑顔、地域の笑顔を増やしていきたい。